

令和⑥年度

施政方針

「施政方針」とは、市政運営に関する市長の考え方や方向性を示すものです。2月27日に開会した、令和6年第1回市議会定例会で、篠原市長が施政方針演説を行いました。今回は、その内容をお知らせします。



四国中央市長
篠原 実

感謝、

そして未来へ

市発足20周年 将来にわたって住み続けられるまちへ

平成16年4月1日に誕生した四国中央市は、この4月で20周年を迎えます。

本市が積み重ねてきた歴史と偉大な先人の功績を見つめ直し、市民のみなさんとともに祝いができる記念の事業を実施してまいります。

井原巧前市長が9年、私が11年で20年の歩みを進めてまいりました。さまざまなおことがありましたが、市民のみなさんとともに次のステップを

目指し成長しています。

5月12日の20周年の記念式典では、市発足以来、さまざまな分野で本市を支えてくれた方々や各種団体を顕彰して、感謝の意を表したいと考えております。

また、記念事業と位置付けて、既存事業の充実を図るほか、特別事業として「紙」に特化したイベントを開催する予定です。

そして、同じく記念事業と

して進めておりました市の花と木の制定につきましても、今回、市の花を「ミツマタ」に、市の木を「五葉松」に決定することといたしました（6・7ページに関連記事）。

この20周年を新たな出発点となる節目の年として捉え、「将来にわたって住み続けられるまち」を目指し、市政発展に取り組んでまいります。

5月12日（日）に「市発足20周年記念式典」を開催します。その他にも各種記念事業を計画中。詳細は本紙などでお知らせします。



災害に強いまちへ 防災・減災対策とインフラ整備

能登半島地震により、多くの尊い命が失われ、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。
これまで我が国は、幾度となく大規模な自然災害を経験してまいりました。今回の能登半島地震も教訓に、地域一丸となって立ち向かっていかなければならないと思っております。

本市は、令和5年度に「四国中央市業務継続計画」の見直しを行いました。令和6年度は、その実効性を高めるため、訓練などを実施します。
また、最新の装備や資器材を備えたはしご付消防自動車、消防ポンプ自動車及び高規格救急車を導入するとともに、老朽化した消防団車両を更新整備します。さらに、LINEから利用できる「デジタル防災マップ」を導入するなど、地域防災力の一層の充実と強化を図ります。

企業用地の確保だけでなく、防災・減災対策効果が期待できる城山下臨海土地造成事業は、令和11年度の完成に向け、鋭意整備を進めていきます。
産業の成長と市民生活を支え、また防災・減災対策に寄与するインフラとして、国道11号川之江三島バイパスと新法皇トンネルの整備促進に取り組みます。
同じく、重要なライフラインの一つである水道施設は、適正な料金水準への見直しの検討を含め、施設の耐震化や更新整備を計画的に進めます。

そして、公立学校共済組合の中核病院の建設に係る側面支援として、渋滞緩和や液状化対策などアクセス道路の整備のほか、さまざまな角度から病院を中心とした新しいまちづくりの検討を進めてまいります。

誰もが輝けるまちへ 人口減少・少子化対策

若い世代が結婚や子どもについての希望を實現できる社会を目指して、結婚新生活支援事業など新たに4事業を実施（22・23ページに関連記事）。人口減少・少子化対策に効果的な施策を強力に打ち出していきます。
また、市民一人ひとりが輝けるまちづくりを目指し、「四国中央市子ども計画」及び「第3次四国中央市男女共同参画計画」を策定します。

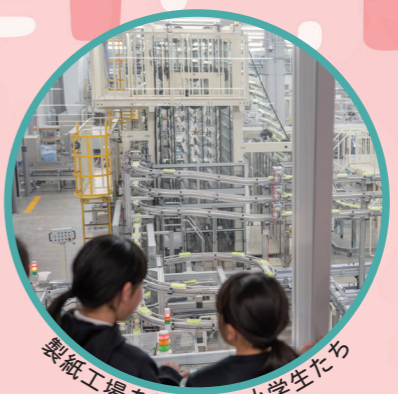
さらに、高校生が主体のイベント「18っ祭！」を開催するなど、若い世代の本市に対する誇りや愛着を醸成し、将来のUターンや関係人口の創出につなげます。
他にも、空き家所有者と移住希望者を結びつける「空き家バンク」の運用や本市での暮らしを体験してもらう「お試し移住」を実施し、若者世代のUターンなど移住・定住を促進してまいります。

子育て環境四国一 保育・子育て支援

少子化が急速に進む中、民間保育施設でも、多様化・複雑化する保育需要への対応が求められています。保育業務の効率化のためのICT運営経費を支援するなどして、民間保育施設の運営の安定化を図り、市全体の保育力の充実に努めてまいります。
また、待機児童解消のために、土居小学校児童クラブの整備に着手します。併せて、指導員の処遇を大幅に改善し、指導員不足の解消を図ります。そして、今年度に引き続き、学校給食費及び保育園等副食費の無償化事業を実施し、子育て世代の負担軽減を図ります。



設計・施工業者が決定した中核病院※完成予定図



製紙工場を見学する小学生たち



稼働開始から24年が経過するクリーンセンター



「18っ祭」がテーマの18っ祭！



給食を楽しむ小学生たち



高い評価を得ている「GIGAしこちゅ〜」



障害児入所施設建設予定地 子ども若者発達支援センター

若者に選ばれるまちへ 産業の支援・強化と人材育成

基幹産業である紙産業は、18年連続で紙のまちランキング日本一を達成するなど、発展を続けています。その発展を持続可能なものとするために、小学生から大学生までを対象に工場見学を実施するなど、将来の地元就職を見据えた人材育成に、より一層取り組みます。
そして、持続可能な地場産業に支えられる魅力ある都市を目指し、各種イベントの開催や新たな企業との結びつきを創出する展示会に出展するなど、地域を挙げて若者に選ばれるまちづくりに取り組みます。
また、行政サービスのオンライン化や移動型行政サービス車両（ベスバ）の機能強化により、利便性の高い、誰もが暮らしやすいまちづくりに努めてまいります。

住み続けられるまちへ 地球温暖化対策

昨年3月に策定した「四国中央市地球温暖化対策実行計画」の下、市民の環境意識の向上と事業者に対する支援策の充実を図ります。
また、学校施設を始めとする、公共施設の照明設備LED化を進めます。そして、市民の暮らしに直結する次期可燃ごみ処理施設の整備については、ごみを燃やさず資源化できる「トンネルコンポスト方式」の導入を決定いたしました。これにより、温室効果ガス排出量の削減とエネルギーの地産地消を目指してまいります（8ページに関連記事）。

生涯学べるまちへ 教育環境の充実

子どもたちの学習の場における熱中症対策と災害時の拠点機能強化のため、小・中学校体育館の空調設備設置に着手します。
また、「身近で利用しやすい施設」、「災害時の拠点となる施設」をコンセプトに、天満・蕪崎地区の交流拠点「北地区交流センター（仮称）」の建設に着手します。
そして、全国でも高い評価を受けている本市のICT教育については、更なる教育DXを推進し、教職員の業務改善や働き方改革にも取り組みながら、多様化する児童生徒一人ひとりを大切にする、「あつたかな教育」を充実してまいります。

支え合うまちへ 共生社会の実現

ひきこもりやヤングケアラーなど、従来の制度・分野の枠組では対応が困難な課題に対処するため、重層的支援体制の整備を進めます。
また、太陽の家成人部の民間移譲に伴い、同児童部を公設公営による福祉型障害児入所施設として移転新築し、令和7年夏頃の開設を目指して工事に着手します。
本市の基幹産業である製紙産業を取り巻く環境は、需要の減少や物価高騰などにより厳しさを増しています。税金など先行きが不透明な状況ではありますが、市発足20周年を迎える令和6年度を「未来への道標を示す年度」と位置付け、能登半島地震を教訓にした防災・減災対策をはじめ、子育て支援、経済対策など積極的に取り組んでまいります。